

県立小瀬高等学校【総合的な探究の時間の全体計画】(令和6年度)

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働きかせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようとする。
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問い合わせを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようとする。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

- ・高い授業力を基に、生徒の基礎学力の定着と向上をはかり、自ら成長しようとする意思をもたせる。
- ・目的に応じてICTを活用することで、教職員の働き方を改善し、生徒の学びの充実を図る。
- ・「総合的な探究の時間」を中心に各教科で体験的な学び・探究的な学びを充実させる。
- ・個々の生徒に応じた支援を充実させ、多様な生徒の進路希望を100%実現させる。
- ・あいさつを励行し、規範意識を醸成する。
- ・生徒会や部活動の自主的な運営を支援し、主体的に生きる力を育成する。
- ・明峰中学校と新たな中高連携を模索し、地域の子どもを育み、地域と共にある学校づくりを推進する。
- ・情報発信・広報を積極的かつ効果的に行い、本校の認知度を高め、志願者確保につなげる。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

- ・自分を肯定的に捉え、自己調整しながら、自分の幸せに向かうことができる。
- ・自分の考えを伝えたり、相手の話を受け止めたりしながら、他者と協働できる。
- ・社会課題に関する知識・理解を深め、見通しを立てて行動し、挑戦し続けることができる。

総合的な探究の時間の学習評価

- ・自己を理解し、興味関心に基づく課題を設定する。
- ・自分の考えを伝えたり、相手の話を受け止めたりしながら、異なる背景や価値観を持つ他者と協働する。
- ・社会課題に関する知識・理解を深め、課題を発見し問い合わせや仮説を立てながら課題解決に取り組む。

生徒の実態

- ・何事も真面目に取り組む生徒が多い。
- ・難関大、私大、専門学校への進学、公務員、民間への就職など様々な希望の進路をもつ生徒がいる。
- ・控えめで引っ込み思案な生徒がいる。
- ・学校行事や清掃など主体的に活動する生徒がいる。

生徒の発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする生徒への指導

指導計画を段階的な指導計画へと切り替えるなど、生徒の教育ニーズにあわせた活動を考える。

目指す生徒の姿

- ・自分を大切にする人（自分を肯定的に捉える、自己調整する、自分の幸せに向かう）
- ・他者とつながる人（自分の考えを伝える、相手の話を受け止める、他者と協働する）
- ・地域・社会に関わる人（社会課題に関する知識・理解、見通しを立てて行動する、挑戦し続ける）

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力）

生徒各自の興味・関心と、身近な地域にある課題や必要性の交わるところを模索し、実現可能な範囲内で課題を設定する。

(知識・技能)

探究活動における考え方、進め方を身につけ、課題の発見と解決に必要な知識と技能を身につけている。

(思考力・判断力・表現力)

地域社会での体験と知識を結びつけながら解釈し、情報を適切に収集・分析しながら環境を改善するために必要なことを自ら考え、自分たちなりの答えや解決策を表現する創造的能力を身につけている。

(主体的に学習に取り組む態度)

地域や社会の課題を自分ごととしてとらえ、より良い未来に貢献すべく自ら課題を設定し、答えのない問題に対して周囲の人々と協働しながら向き合い、新たな価値を創造するために粘り強く挑戦・行動している。

学習活動、指導方法等

- ・地域で活躍する多様な背景を持つ人たちと出逢いやりとりを重ねることで、問い合わせを持つ力や状況に応じた適切なコミュニケーション力を養う。
- ・地域フィールドワークなどを通じて学んだことを、グループ活動を通じて生徒同士で共有しあう。
- ・学校横断型オンライン探究を通して、校内だけでなく他校の生徒とも情報を交換しあい成果を発表しあうなどして学び合う。
- ・インタビュー・アンケート、実証実験などを通じてオリジナルデータを収集し、自ら設定した課題の解決に取り組む。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

○特別活動部「総合的な探究の時間」担当・・・総合的な探究の時間は特別活動部で担当。各学年からの総探担当者と主担当教員が中心になって進めます。年間を通した授業デザイン等はそれぞれの学年全体で検討し、生徒の状況などを考慮した上でふさわしい活動を吟味し実践する。

○家庭との連携・・・学校だよりを通じて、総合的な探究の時間での取組内容について周知する。

○地域との連携・・・地域の事業所・市役所等と連携を図り、生徒の探究活動の場を設定する。また、地域の方々への広報活動を行う。

○明峰中学校との連携・・・中高一貫連携だよりを通じて、総合的な探究の時間での取組内容を周知する。また、「ふれあいキャンパス」・「学びの広場」など中高生が一緒に活動する場をさらに広げていく。